特256
257

0032486000

0032486-000

特２５６－２５７

清水市勢要覧

清水市

昭和１２年版

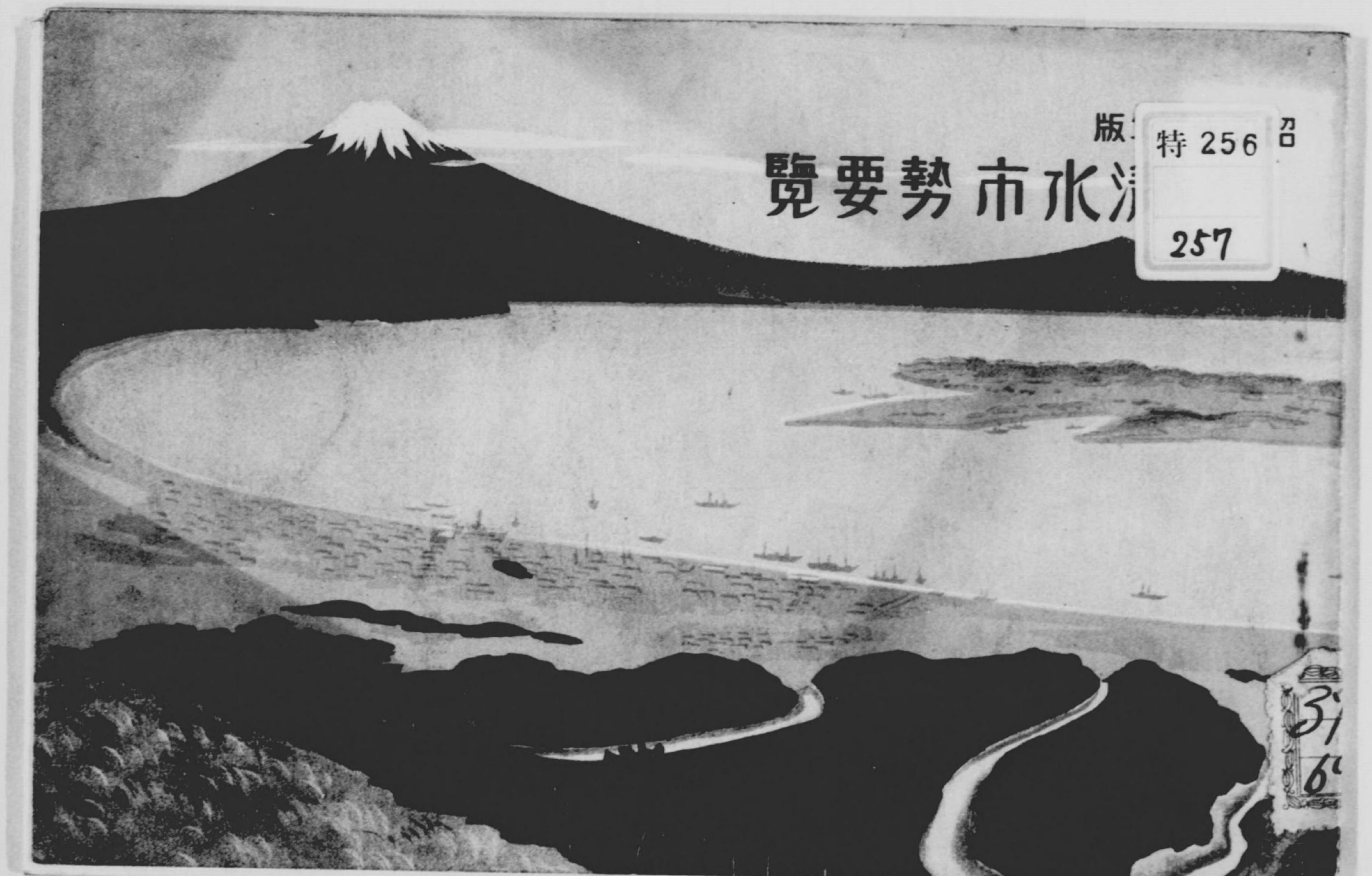
昭和１３

AFB

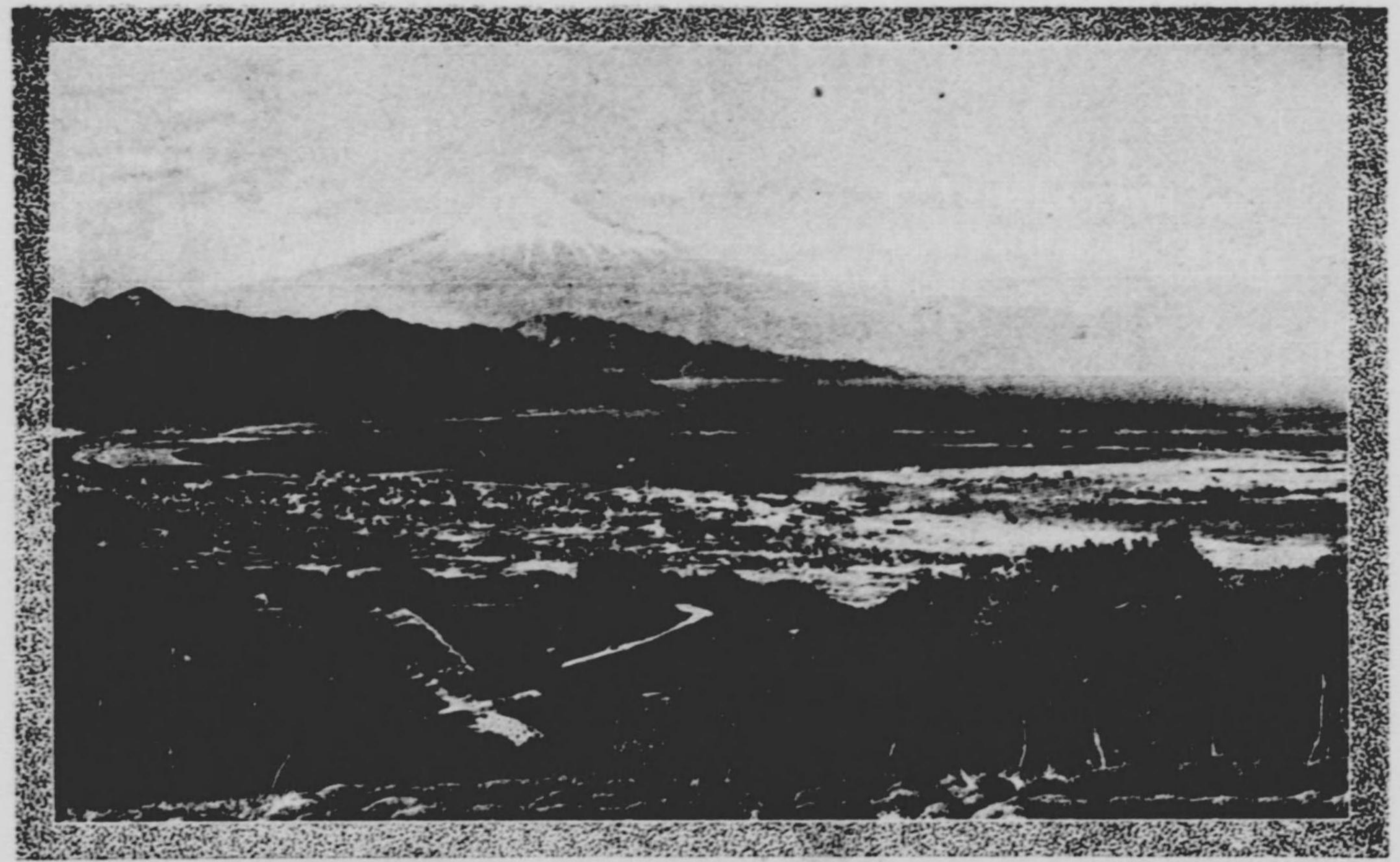
昭[illegible]版

清水市勢要覧

特 256
257



37
6



「清水市全景」

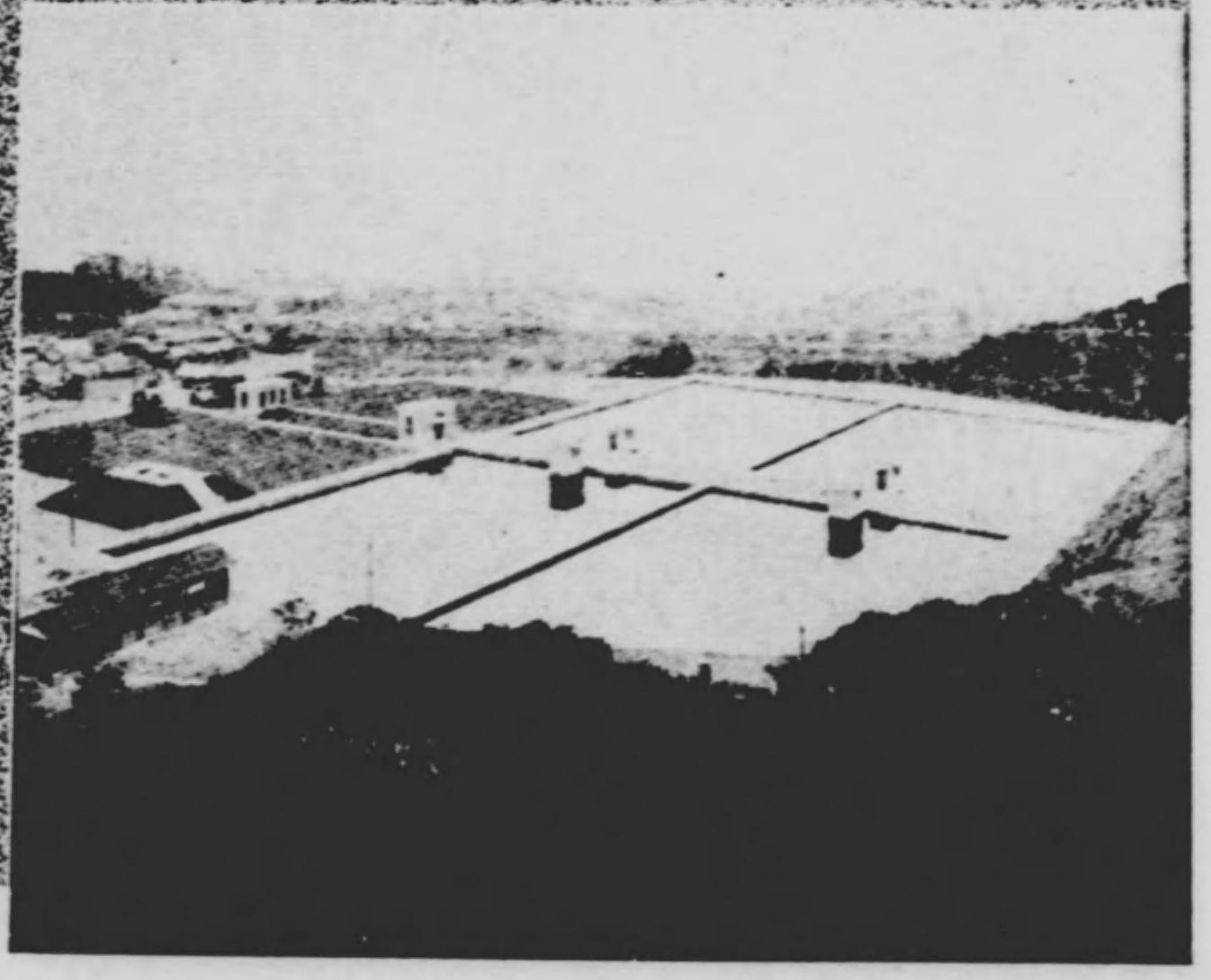
特256
257

清水港岸壁繫船の景

清水市役所

水道水源地

水道淨水場



三保の松原

羽衣の松

地勢・沿革・名所舊蹟

地勢

本市は東海の中央駿河灣に面し、北緯三十五度零分五十二秒東經百三十八度三十一分二十秒に位置す、東西四千五百八十二米、南北八千百八十二米、面積二十八・五平方粁、地域平坦にして西に有度山を負ひ、北に龍爪山、赤石の連峰を眺望し北東芙蓉の靈峯を仰ぎ伊豆半島北より南に蜒蜿起伏し、風光頗る絶佳なり。

東海道本線市の中央を貫通し、西方十一粁餘にして靜岡市に至り東方四十二粁沼津市に達す、其の中間富士驛より分岐する富士身延鐵道を通じて甲信と連絡す、巴川市の西より東に流れ、折戸灣に注ぐ所清水港を抱擁し、内外諸港と連繋す、特に米國航路の樞要港さして、神戸横濱の中間に介在し、物資の集散繁く内外汽船歳毎に輻輳し、海陸交通の要衝なり

沿革

本市沿革の概要は、御穗神社の起源に徴するも、遠く上古より東海に於ける政治經濟の要地として、發達せるものゝ如し。

日本武尊東征の際、御穗神社に官幣を供せられたる、辻の矢倉神社の縁起、市の西郊草薙神社に垂跡せられし等、其鎭東の策源地たりしを想ふべく、降て齊明天皇の朝に百濟救護の爲新羅を征せんとして、當國に勅して船を造らしめ、廬原君に命じ、兵を卒ゐて渡航せしめられたる如き既に工藝の進歩、産業の開發を推度すべきなり、爾後清見に關を置かれし事跡、平維盛の富士川に出陣せし、今川氏の江尻に築城せるより、武田氏の之を改築し、更に清水に城砦を造營せる又豐臣秀吉小田原に北條氏を討伐せしの際は、大に軍需品を此地に集め、巨船を泛べて兵站の基點とし、德川氏政柄を執るの初期に於ては、清水港を水軍の根據地と爲せる等、歴世の史實當地の要地樞軸たるを示さゞるなし、明治四年地方區劃の法を定め、同五年九月之れを改正して、庵原郡を第三大區とし、辻、江尻は第四小區に編せられ、有度郡は第四大區にして、清水其他の町村は第二小區に屬せり、當時の制、大區に區長を置き、小區に副區長

常磐の南國情緒石垣苺

俠客次郎長の銅像

を駐め各町村の戸長には、從來の庄屋、名主、年寄を當て、町頭、百姓代を以て副戸長と爲せり。

明治十二年區制を廢し、郡役所を設け、巴川北岸の地は庵原郡役所に、其南岸の地は有度、安倍郡役所の所管たりしが、明治廿九年九月、有度郡の廢せられてより、安倍郡に屬する事となりぬ。

明治廿二年町村制施行と同時に、庵原郡江尻宿、江尻出作、辻村を以て江尻町を置き、有度郡入江町、元追分、上清水を、入江町と定め、同郡清水町及び清水受新田、入江受新田を以て清水町とし、船越、北矢部、南矢部、下清水、村松、宮加三、駒越、增、蛇塚の各村を併せて、不二見村とし、三保村、折戸村を合して、三保村と爲し、各々自治体を構成せしが、明治廿六年四月、江尻町の內辻を分割して、辻村を置き、大正七年八月辻村に町制を布くに至れり、越えて大正十三年一月卅一日庵原郡江尻町辻町を安倍郡入江町に編入し仝年二月十一日紀元の佳節をトし安倍郡入江町、清水町、不二見村、三保村を以て清水市とし、市制を施行以て今日に至れり。

明治天皇御遺跡

明治元年十月五日明治天皇御東幸の際江尻宿本陣寺尾與右衞門方に御駐泊鳳輦を魚町稲荷神社境內に置かれ翌二年三月二十二日京都より御還幸の砌にも御同様御駐泊あらせられ後ち件の假舍を稲荷神社に下賜せられ現に存す。昭和五年　今上陛下御臨幸記念事業として之を修理し、同社境內永久保存聖跡を傳ふ。

三保の松原

有度山の東麓八ツ山より北方行程六粁眞崎に至る。半島の隨所に松樹散叢す、所謂三保の松原なり。風光明媚氣候温和四時春の如し。大正七年新日本三景の撰に入り、碑を建て之を表す、十同一年三月八日內務大臣より名勝地として指定せられたり。

羽衣の松

御穗神社の南方約六町の海濱にあり。一名衣掛の松とも言ふ。漁夫伯梁の爲に舞曲を演じたる天女が、其の羽衣を掛けきと傳ふるもの是なり。樹下に羽車神社（羽衣の社とも云ふ）及羽衣天女の碑あり。

御穗神社

三保宮方に鎭座、延喜式內の舊社にして、海內に著聞す。日本武尊東夷征伐の時、勅命を奉じて官幣を捧げ、圭田五百畝を獻ぜられたりと傳ふ。爾後朝廷より數次神位を授け賜ひ源頼朝以來歷代武將の崇敬厚く、今川武田豊臣德川の諸家に於ては、三保、折戸、別府の三邑を、社領として寄進せり。祭神は大己貴命、三穗津姫命にして、境內一萬平方米、古木森々舊社の面影を存す。寶物に羽衣の切端、鈴木三郎家重の大刀甲兜等あり。糸卷の大刀は天下の絕品と稱せられ、大正十四年四月國寶と爲れり。

鐵舟寺

元久能寺と呼びしが、明治三年廢寺となれり。山岡鐵舟之を惜みて再興し、從來の山號を踏襲して補陀落山鐵舟寺と名づく。當時の什寶は久能寺より繼承せるを以て珍重のもの尠からず、就中妙法蓮華經方便品第二（右衞門尉秀賴手寫）以下十八本、及び小納言信西筆の觀普賢菩薩行法經一卷は國寶となれり。山上に觀音堂あり。朝暉夕照晴嵐烟雨佳ならざるなく風光群を拔く。

龍華寺

鐵舟寺の南隣約六百米にして山門に達す。前面に富岳を望み伊豆の連山に對し清水市街、三保の松原、興津清見寺等を、一眸に收めて眺望絕妙なり。庭內の仙人掌蘇鐵は頗る長大にして其の名四隣に聞ゆ、天然記念物として內務大臣の指定を受く。明治の文豪高山樗牛の墓は、堂宇の背後山腹にあり、四時訪れる人跡を絕たず。

侠客次郎長之墓

下清水の禪刹梅蔭寺に在り、侠客次郎長之墓と題す、榎本武揚子の筆に係る、次郎長本名は山本長五郎と云ひ清水美濃輪に生る、父三右衞門は航海を業とし、養父治郎八は米穀商を營む、少壯精勵家業を修めしが、一日忽如感ずる所ありて、豪縱自ら喜び、氣を負ひ俠を以て任じ、强を

名所舊蹟

挫き而して弱を扶け、一旦然諾すれば即ち死尙節を操る、鄕黨爲に信頼す明治元年幕臣の戰歿死体を、市內向島に斂めたるの義擧は、夙に人口に膾炙せり、當時幕士の當地に潜伏するもの數十名に、私に資を給して其歸處に就かしめたる如き、唯自己滿足の爲に過ぎざりしものなるべきも、眞に陰德と爲すべきなり。後山岡鐵舟に謁し、其說に聽きて翻然悔悟、其行を改む、晩年殖產に努め、富士裾野に曠野數十町歩を開墾し、老齡自ら耒耜を採りて耕耘し、國益を計りて報效を期せしが、明治廿六年六月十二日、壽を以て家に終る。享年七十四、山岡鐵舟居士其像に贊して、生無一日歡、死有萬世名、と。頃者有志相謀り、銅像を塋域梅蔭寺に建立するに至れり。

壯士之墓

港橋南方約三百米餘の所に在り、明治元年九月十八日幕府の軍艦官軍と相戰ひ敗れて退く、死屍海上に漂蕩するも之を收容するものなし、俠客山本長五郎（俗に清水の次郎長）之を悼み納めて向島の地に合葬し一碑を建立して菩提を弔ふ。山岡鐵舟其の志に感じ碑面に（壯士の墓）と題す。

日本平

有度北嶺の頂を日本平と云ふ、清水驛より八粁餘、草薙神社の附近に散在する、日本武尊東征舊蹟十四ケ所の一なりと云ふ。展望廣濶、富士、愛鷹、箱根、天城の諸山指呼の間に連亘し、駿河灣は、伊豆半島に抱擁せられて庭池の如く、用宗の奇勝大崩れより、靜岡、清水の兩市は勿論興津岩淵等脚下に羅布す、景象の雄大なる、太平洋の海波蒼茫、想を放てば黛の如く、兩米の大陸心眼に映ず、此の地未だ周く世間に知られずと雖も、昭和九年「ドライブウエー」の完成後登山する者著く增加す。

久能山東照宮

郊外久能山に鎭座す、宮殿堂舍の莊嚴、金銀珠玉を鏤め、華麗言語に述べ難く、筆紙に盡し難しと舊記に出たり是即久能寺の舊址にして、武田信玄收めて築城せしの地とす。清水驛より約一〇粁にして、麓に達し、更に坂路約六百米、十七曲の石階を昇りて神殿に到るべし。

位置

清水市役所	
清水市辻一、二三七番地	
東經	一三八度三一分二〇秒
北緯	三五度 〇分五二秒

面積

面積		一・八五方里
廣袤	極東（三保字廣道） 極西（村松字大細谷）	一里六町
	極南（蛇塚字西組） 極北（辻字宮下町）	二里三町

土地

土地總反別（昭和十一年末）

民有有租地	民有免租地	免租年期地	計
一、九七九、三八二四町	六五、六〇一八町	六、三二〇六町	二、〇五一、三二〇八町

民有有租地（昭和十一年末）

地目	反別	賃貸價格	地租
田	四六四、九三四町	一五一、九七九、九六円	五、一九六、四三円
畑	七二三、〇四〇一	一二六、三九七、〇六	二、六九九、九八
宅地	九二〇、一四三坪	七四五、〇三四、八九	二七、七二八、九九
山林	四四五、〇〇〇〇	八、〇六九、三九	九一九、七六
原野	一五、九四〇三	一一三、五〇	
其他	二三、七六〇五	一六、三九二、四三	
計	一、六七二、六七〇三町 九二〇、一四三坪	二九二、九五一、三四 七四五、〇三四、八九	三六、九四五、一六

戸口

現住戸口

	本籍	寄留	計
戸數	七、六九二	五、〇三三	一二、七二五
人口 男	二一、七三九	一一、四三七	三三、一七六
人口 女	二一、六二〇	一〇、八九五	三二、五一五
人口 計	四三、三五九	二二、三三二	六五、六九一

本籍人口動態

	男	女	計
婚姻			六六五組
離婚			七六組
出生	八五二	八〇四	一、六五六
死亡	三九四	三八五	七七九
死產（現在人）	五一	四一	九二
出產死亡ノ差額	四五八	四一九	八七七

職業別戸數（本業）

職業	戸數
農業	一、六〇〇
水產業	三六五
鑛業	二
工業	二、八四一
商業	三、二八七
交通業	一、〇六一
公務自由業	一、〇七二
其ノ他ノ有業者	一、〇一二
家事使用人	三一
計	一一、二七〇
無職業	四五七
合計	一一、七二七

教育

種別	名稱	職員數	學級數	生徒數	所在地
縣立	庵原中學校	二三	一〇	五〇一	江尻出作
	清水高等女學校	二一	一〇	四七〇	上清水
市立	清水商業學校	二四	一〇	五三〇	入江
	三保尋常小學校	一九	一七	八五四	三保
	駒越尋常高等小學校	二〇	一六	七六五	駒越
	不二見尋常小學校	二〇	一八	八七八	村松
	清水尋常小學校	三二	二九	一、三七〇	清水字松井町
	岡尋常小學校	二九	二七	一、五九四	下清水
	入江尋常小學校	二〇	一八	一、〇〇二	入江
	江尻尋常小學校	三三	三〇	一、七五〇	江尻
	辻尋常小學校	二二	二〇	一、二〇八	辻
	忠愛高等小學校	三八	二七	一、三三八	下清水
	三保青年學校	一二	五	一三七	三保
	駒越青年學校	一〇	三	九六	駒越
	不二見青年學校	一四	六	一八〇	村松
	清水商業青年學校	一五	六	二四八	清水字松井町
	江尻工業青年學校	一七	六	二一三	江尻
	入江青年學校	一一	三	一四一	入江
	辻青年學校	一〇	五	一二三	辻
	三保幼稚園	二	二	三九	三保
	清水幼稚園	四	四	一五二	清水
	江尻幼稚園	四	三	一二三	江尻
私立	山田女子技藝學校	二	二	三二	入江
	清水裁縫女學校	六	五	四二	江尻
	清水女子商業學校	五	二	二九四	仝
	辻幼稚園	五	四	一三〇	辻
	入江幼稚園	三	三	八四	入江
	清美幼稚園	四	四	一六五	下清水
	旭幼稚園	二	二	六五	辻
	島崎幼稚園	四	三	六五	仝

教育

小學校

學齡兒童		男	女	計
就學始期既達者	就學	四、八四九	四、六八八	五、五三七
	不就學	一九	一三	三二
	計	四、八六八	四、七〇三	九、五七一
就學始期未達者		八二三	七八四	一、六〇七
合計		五、六九一	五、四八七	一一、一七八

就學歩合	就學始期既達者百中 男	就學始期既達者百中 女	平均
	九九、七七	九九、七七	九九、七七

校數	
尋常小學校	七
尋常高等小學校	一
高等小學校	一
計	九

		尋常科	高等科	計
學級數		一七二	三一	二〇三
兒童數	男	四、八一三	九三五	五、七四八
	女	四、七〇五	六六五	五、三七一
	計	九、五一九	一、六〇〇	一一、一一九

			本科正教員	專科正教員	準教員	代用教員	計
教員		男	一四二	六	—	一一	一五九
		女	五九	一〇	三	二	七四
		計	二〇一	一六	三	一三	二三三
月俸平均額	尋常	男	六六	〇	〇	四六	平均 六五
		女	四八	四〇	四五	三五	四八
	高等	男	六六	五六	〇	六五	六五
		女	五四	四二	〇	三五	五〇

幼稚園

園數	組數	保姆數	園兒 男	園兒 女	園兒 計
三	一〇	一〇	一七一	一三六	三〇七

青年學校

校數 公立	校數 私立	教員數	入學者	生徒	卒業者
七	—	九〇	三〇四	一、一二八	一六八

圖書館

館數	藏書數 和漢書	藏書數 洋書	藏書數 計	開館日數	閲覽人員 男	閲覽人員 女	閲覽人員 小學兒童	閲覽人員 計
一	五、六三四	一二五	五、七四九	二八五	一八、五四七	一、五九九	五、六六九	二五、八一五

公學收入

授業料保育料	寄附金	基本財産收入	雜收入	縣費補助	國庫補助	計
四七、八三二円	二、一三五円	三三円	五一九円	三、四三四円	六三、三〇九円	一一六、一五三円

教育

費	支出
職員俸給	一九八、四九九円
圖書機械器具標本費	九、六七八円
消耗品費	五、六五四円
新營費	一六七、九七六円
修繕費	一、一七〇円
其他	四八、〇一八円
計	四三〇、九九五円

公學費産		
土地	建物	一五、〇二六
	價額	四八四、三七七円
建物	坪數	一八、〇八二
	價額	四四四、三〇八円
圖書機械器具標本費		二〇〇、五三五
學校基本財產價額		四五一円
計		一、一三九、七七一円

社會教育

清水市青年團	團數	六
	團員數	二、七八五
	經費	二、六三二円
清水市處女會	團數	八
	團員數	六〇四
	經費	一、四六一円
清水市青年講習所	所數	一
	生徒數	九四
	經費	六〇〇円
清水市女子青年講習所	所數	七
	生徒數	六〇七
	經費	三〇〇円
主婦會	會數	一八
	會員數	七〇二
	經費	九三〇円
壯年團	團數	一
	團員數	二三
	經費	二七円

生產總額

種別	產額	百分比
農產	一、三六一、三九五円	三・三
畜產	二八一、三五六	〇・七
水產	一、六九一、六七二	四・一
林產	二、九九五	〇・〇
工產	三八、〇三六、二六一	九一・九
計	四一、三七三、六七九	

現住一戶當　三、二五一圓
現住一人當　六三〇圓

農業

耕地面積	
田	三、九〇一反
畑	七、〇七五反
計	一〇、九七六反

農業戶口		
農業戶數	本業	一、六〇〇
	副業	二八九
	計	一、八八九
農業者	自作	一、三六二
	自作兼小作	二、四五八
	小作	一、七二五
	計	五、五四五

農業

米麥其他食用農產物

種別	作付反別	收穫高	價額
米	三、八三三反	九、八三六石	二六九、四八三円
麥	二、一一四	三、六一七	六九、二三六
蕎麥	五三	五三	四一六
甘藷	一、七八〇	八九〇、〇〇〇貫	七一、二〇〇
馬鈴薯	二四〇	一〇八、〇〇〇	二、六八〇
其ノ他	二〇三	一三五石	二、四四八
計	八、三三四	一三、六三〇石 九九八、〇〇〇貫	四三五、五二三

園藝農產物（蔬菜）

種別	作付反別	收穫高	價額
胡瓜	六〇反	三六、〇〇〇貫	三六、〇〇〇円
南瓜	三〇	一三、〇〇〇	一、八二〇
西瓜	五〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇
茄子	五二	三六、四〇〇	七、二八〇
豌豆	三〇一	一五一石	三、〇二〇
蕃茄	三三七	一七五、二四〇貫	六六、五九一
生薑	四〇〇	四〇〇、〇〇〇	三三、〇〇〇
胡蘿蔔	五	一、七五〇	三五〇
葱頭	三〇〇	一二〇、〇〇〇	二一、六〇〇
青芋	四一〇	一六四、〇〇〇	三二、八〇〇
隱元豆	六一三	九二〇石	四三、三二〇
其他	二九五	一四石 一四七、五五〇貫	三三、六五八
計	二、八五三	一、〇八五石 一、一一三、九四〇貫	二七一、四一九

園藝農產物（果實）

種別	樹數	收穫高	價額
梅	五六〇本	六四石	八九六円
桃	九九〇	一、六七二貫	五八五
枇杷	五三〇	九六〇	三三六
蜜柑	四七、七〇五	二五三、一五〇	七八、一六七
梨	六、一五四	五八、六四四	一一、七二九
苺	六五六反	六四、〇三〇個	四三八、四〇〇
計	五五、九三九本 六五六反	六四石 三一三、四二六貫 六四、〇三〇個	五三〇、一一三

工藝農產物

種別	作付反別	收穫高	價額
胡麻	一二反	一〇石	一八〇円
糸瓜	五	一〇、〇〇〇個	二〇〇
計	一七	一〇石 一〇、〇〇〇個	三八〇

農業

製茶

茶業戸數	茶畑反別	數量	價額
一三	一、三四九反	六五、九一七貫	一三、八七〇円

蠶糸業

桑畑

畑	其ノ他	計	桑葉收穫高
四八反	—	四八反	—

養蠶

	飼育戸數	掃立枚數	收繭高	價額
昨夏秋蠶	一〇	三六〇瓦	二七〇貫	一、一四二円

眞綿

製造所數	數量	價額
一円	一五貫	四五〇円

畜産業

家畜

種別	飼養戸數	頭數	年内出産頭數	年内出産價額	斃死
牛	一九二	二五七	二五	〇	四
馬	四九	五八	〇	〇	〇
豚	五三七	九二一	六三一	〇	三一
山羊	一	一五	七	〇	〇
家兎	二五	五二六	三一〇	〇	四二
計	八〇四	一、七七七	九七三	〇	七七

牛乳

搾乳業者 搾牛戸數	乳牛頭數	搾乳高	價額
六	五九	七〇八石	三五、四〇〇円

家禽

	飼育戸數	羽數	價額	産卵 箇數	産卵 價額
鷄	八六九	五九、三五〇	七四、〇八〇円	六、四七八、三三〇	一六八、四三六円
鶩	四	一七	三三	二、二五〇	七九
計	八七三	五九、三六七	七四、一一三	六、四八〇、五七〇	一六八、五一五

林産業

林野面積

御料	公有	社寺有	私有	計
—	一、二二六反	六七反	四、〇三七反	五、三三〇反

民有林植栽

新植 面積	新植 數量	補植數量	天然造林
—	—	—	四三、一反

民有林伐採

用材 材積	用材 價額	薪炭材 材積	薪炭材 價額	竹材 材積	竹材 價額
—	—	四八五棚	四一三円	四四束	六六円

林野産物

柴草	山葵	木炭	計
一、五二〇円	八二五円	一八三円	二、五二七円

水産業

水産業者

漁撈 本業	漁撈 副業	養殖 本業	養殖 副業	製造 本業	製造 副業	計
六三三	九〇	一七	一、四二七	一九五	四四	三、二〇九

漁船

動力ヲ有スルモノ	動力ヲ有セザルモノ	計
一一四隻	二一〇隻	三二四隻

漁獲物

種別	數量	價額
タヒ	一、七五〇貫	八、六二八円
マグロ	四、七五〇	五、九三八
イワシ	九六四、八〇〇	九一、六五六
サバ	七、三五〇	五、〇八七
其ノ他魚類	八二、六四〇	九二、六九四
貝類	九、五〇〇	三、三二五
エビ	二三五、五五二	一二九、五五四
其ノ他ノ水産動物	一、〇三二	一、八九四
計	一、三〇七、三七四	三三九、四九六

水産製造物

種別	數量	價額
カツヲ節	三五、〇〇〇貫	二〇四、〇〇〇円
其ノ他ノ節類	七、五〇〇	三〇、六二五
其ノ他食料品	六五二、八二三	八八九、一七三
計	六九五、三二三	一、一二三、七九八

水産養殖

場數	種類	數量	價額
八	カキ	四六七、二〇〇貫	五八、四〇〇円
	アマノリ	一二八、〇〇〇	一三四、四〇〇
面積 七三四九一坪	計	五九五、二〇〇	一九二、八〇〇

工業

工場

工場數	職工數 男	職工數 女	職工數 計	生産額
一四三	二、五四七	一、二六九	三、八一六	三三、三二一、一八三円

工業製品生産總額

昭和十一年	昭和十年	昭和九年
三八、〇三六、二六一円	二七、三三九、六九六円	二五、一五九、四八八円

商業及金融

會社

組織別

種別	社數	公稱資本金又ハ出資額	積立金
株式會社	三八	一四、八五四、〇〇〇円	九七八、五六一円
合資會社	六四	一、二二九、三七〇	三八、七五〇
合名會社	七	一三〇、四九〇	―
計	一〇九	一六、一七五、八六〇	一、〇一七、三一一
外支店	一五	―	〇

業態別

種別	本店	支店
工業	三六	一三
商業	六〇	一五
銀行業	一	九
運輸業	一二	一
計	一〇九	三八

商業及金融

銀行

	行數	公稱資本金	拂込資本金	準備金積立金	預り金	諸貸金
當所本支店	三	二、五三〇、〇〇〇円	一、六三五、五〇〇円	三一九、五〇〇円	四五、二四八、九一三円	一九、〇九六、三三六円
他所支店	七	〇	〇	〇	一一八、九九六、五一八	六一、二三九、九四六
計	一〇	二、五三〇、〇〇〇	一、六三五、五〇〇	三一九、五〇〇	一六四、二四五、四三一	八〇、三三六、二七二

産業組合

組合數	組合員數	拂込濟資本金	諸積立金	借入金	貸付金	貯金	販賣額	購買額
五	二、二六四	一五四、〇六三円	二、一八〇円	一〇四、六八一円	六一九、八五八円	七五二、二三八円	一七五、四三三円	一六六、二二〇円

貯金

銀行 預入高	銀行 年末現在	郵便（其年中） 人員	郵便（其年中） 金額
四一二、九五一円	一七六、九四八円	一九九、九八一円	一、七四四、〇四一円

質屋

貸出額 口數	貸出額 金額	受戻高 口數	受戻高 金額	流レ高 口數	流レ高 金額	年末現在 口數	年末現在 金額
三一、四四四	一〇四、〇六四円	二六、四一五	八七、八七三円	四、五六三	一八、八六四円	四七、二七三	七二、九九〇円

清水港出入貨物

輸出入

品種	輸出 數量	輸出 價額	輸入 數量	輸入 價額
緑茶	一九五、一六四百斤	九、〇〇三、四二三円	|百斤	|円
大豆油	四五、七八五	八六八、〇六二	|	|
大豆粕	|	|	四三七、八〇一	一、九一六、一一七
蜜柑	三九、五〇八	四〇九、六五五	|	|
椎茸	二四七	七五、七三四	|	|
罐詰	一五八、八七一	五、五一六、二三七	|	|
醤油	二六〇石	二七、八八四	|	|
大豆	|	|	二、七七二、六三四	一七、六二六、六〇六
硫安肥料	|	|	|	|
麬	|	|	六三、六三三	三〇九、九八七
石炭	|	|	六四、九一一噸	七六一、五六七
木材	|	|	四二、〇八三立方米	九四九、三〇五
小豆	|	|	四三、〇九〇百斤	二九三、九二〇
其他	|	六、二九〇、三〇一	|	三、九四七、一九五
合計	|	三三、三二一、二九六	|	二五、七〇四、六九七

移出入

品種	移出 數量	移出 價額	移入 數量	移入 價額
植物	二噸	三〇円	|噸	|円
米麥	一、四八五	三八、八四六	三五、一六六	六、六一一、六五五
豆類	二〇五	二八、四九七	九、四六二	一、二九九、六七九
雜穀	一九二	三六、四三八	四四五	七六、〇二五
澱粉其ノ他茶	三一一	四五、六四八	二、九三四	八〇八、二〇八
食鹽	七五〇	三七、一二五	三三、四四九	一、三〇八、六六三
昆布石花菜其他	|	|	一、四六一	三一四、二五六
鮮魚介	|	|	一三、二八九	二、二八二、一六八
鹽乾魚其他海産	五四	七、五四九	八六八	一三〇、八四三
乾物蔬菜果實	七四九	七〇、三八四	六五四	四六、一五三
味噌	|	|	二九七	一七、五〇七
醤油	四三三	五三、二三〇	|	|
和酒	三四三	一一九、〇三〇	|	|
洋酒	一〇噸	一、七〇〇円	|噸	|円
清涼飲料水	三〇〇	二五、七五〇	|	|
砂糖	一一八	二九、六七八	一四、五五五	四、三三八、二九三
罐詰、壜詰漬物	四九〇	九二、九八四	七五	三〇、〇四八
氷、淡水	六八、一八三	六六、五六九	|	|
鳥卵	|	|	七九	一四、八六八
其他食料品	三一	七、一一七	|	|
牡蠣殼	九	一五九	三〇	五五〇
油脂及蠟	六、三三四	一、一七〇、一五六	三八〇	三一、四三〇
藥品及塗料	一、一三九	九九、五九一	八、六一三	九八九、一七六
糸縷縄索及同材料	七七	四五、六三三	五六三	六八、〇九八
布帛及製造品	一七	一三、〇四三	一〇七	一五、三五〇
衣類履物及其他附屬品	二九三	三八、一二九	|	|
製紙原料紙及同製品	三、〇六六	七五六、三〇九	三、〇四四	三、四七三、三八六
石炭	三〇、五五一	四三一、一六一	三四一、五三三	四、六八九、四四三
石灰石、石灰、土砂、石粉（砂利、石材其他）	|	|	六、一六四	六三、五三四
コークス	一三八	四、二〇九	五、一三六	一五〇、三五二
コーライト	|	|	三六五	四、九五〇
セメント	二、四一三	五七、六七二	五五、八〇七	一、三三七、四四五
其他鑛物製品	一〇〇	一、八六四	二、四五三	七八、四九六
金屬及同製品	八七四	六五、〇一一	一一、九九七	一、四七八、七二〇
陶磁器	一〇	六〇〇	一九一	一一、八四二
瓦、土管	一六、五七二	三四一、三五二	三九四	八、八六五
硝子鏡其他	三〇四	六、〇六〇	五五	一三、二九〇
車輛、時計機械類	一三〇	三九、八七六	六三	一三、〇七七
肥料	一三、八三二	一、二七一、三七九	一七、三三八	一、〇六八、五九八
飼料	五三一	三八、七三九	四、〇〇八	二三九、〇一七
木材、板類	四三、二三八	二、〇三八、三三四	一四〇、四九八	四、一三三、三九三
薪	|	|	七、一三七	二七、六七五
木炭	|	|	三一、四三五	五四五、九一八
木製品	三、三三三	三二一、七三九	一七三	一八、六七一
竹材及籐及同製品	九三〇	一三三、四一四	二九三	八、二四〇
雜品計	三九七	三二、八二〇	二、一二七	二三〇、八二五
合計	一九七、九三三	七、七三三、九九一	七六五、五一七	三五、七一七、七二三

土功及交通

道路延長

	路線數	延長
國道	一	二、六四二米
縣道	七	三三、八二一米
市道	九三四	三六四、四三一米

橋梁

種類	桁數	計
國道	一	一
縣道	一九	一九
市道	六三	六三
計	七一	七一

鐵道（昭和十一年）

	延長	乘車人員	降車人員	發送貨物	到着貨物
國有鐵道	一四、〇一〇米	六四七、六三〇	六五四、四五七	七三八、七三三瓲	一三三、七四三瓲
軌道	六、100	二、一八一、九四三	二、二〇五、三九五	一一、五七五	八二

車輛（昭和十一年三月末現在）

牛馬車	乘用	0
	荷積	四九
人力車		三
荷車		四九三
軌道人力貨車		一
自轉車	自動	七二
	通常	六、七〇九
自轉車		二三二
計		七、五六六

港灣

港別	入港船舶 隻數	入港船舶 登簿噸數	乘降船客 乘客	乘降船客 降客	出入貨物 輪移入	出入貨物 輪移出
商港	七、一七二	三、四八六、九六三噸	三、一五六	二、九六八	六一、四三三、四一九円	二九、九四四、三八七円

郵便、電信及電話（昭和十一年度）

	引受	配達
通常郵便	三、三四八、八二六	四、七四七、一三九
小包郵便	四六、三三八	四一、四二〇
電信	八五、一三四	二八、三五五

局數	
郵便局	七
電信局	一
電話局	一
自動電話	四

土木費及都市計劃街路事業費（昭和十一年度）

	國庫補助	縣費補助	市費	負擔金寄附金	計
通常費	0円	八五、七八〇円	一、二二九、九五七円	七八、三三〇円	一、三八四、〇六七円
災害費	0	三、三一七	四、七八三	0	八、100
計	0	八九、〇九七	一、二三四、七四〇	七八、三三〇	一、三九二、一五七

上水道

給水戸數及給水量

戸數	
專用定額給水	二、七八二
共用定額給水	九九一
專用計量給水	九九五
計	四、七六八

水量	
總給水量	四、四九九、九〇〇立方米
一日平均	一二、三〇〇立方米
最多日	一六、〇〇〇立方米
最少日	三、六〇〇立方米

專用計量給水內譯	
營業及職業	七〇九
鐵道	一
湯屋	一四
工場	四五
官公署學校銀行	一一〇
撒水	一二六
計	九九五

消火栓及公衆栓

公設消火栓	四六六
私設消火栓	一九
公衆栓	一三

取水及送配水

取水方法		自然流下式
取水量		毎秒 〇、一七三立方米
水壓		一平方糎ニ付 三五、五瓩
計畫人口		一〇萬人
計畫給水量	一人一日平均	〇、一二立方米
	一人一日最大	〇、一五〇立方米
送水管		八六、一八二米
配水管		七四、一七六米

上水設備

沈澄池	員數	二
	一池ノ大サ 長	四九、一米
	一池ノ大サ 巾	三六、四米
	一池ノ大サ 深	三、五米
	容量	人口十萬人最大給水量十五時間分
濾過池	員數	四
	一池ノ大サ 長	四七、六米
	一池ノ大サ 巾	三〇、三米
	一池ノ大サ 深	二、四米
	濾過速度	一晝夜 三、六米
	濾過水量	三池ニテ一晝夜 一五、二八八立方米
配水池	員數	二
	一池ノ大サ 長	二八、五米
	一池ノ大サ 幅	三六、一米
	一池ノ大サ 有効水深	三、六米
	容量	二池ニテ十萬人最大給水量八時間分
補水設備	喞筒	九吋二段タービン一臺
	揚水量	毎秒 〇、〇八三立方米
	動力	重油機關 一一〇馬力 三氣筒 一臺

衛生

市立傳染病院

敷地坪數	建物 建坪	建物 棟數	建物 病室數
二、〇三七坪	四三二坪	一一	二三

種別	收容 前年越	收容 本年收容	轉歸 全治	轉歸 死亡
赤痢	—	二四	二三	一
疫痢	—	一七	一五	二
腸チブス	—	三二	二四	七
パラチブス	—	四	四	—
猩紅熱	一	八	七	—
ヂフテリヤ	—	九	八	一
流行性腦脊髓膜炎	—	—	—	—
計	一	九四	八一	一五

醫療關係

醫師	齒科醫師	藥劑師	藥種商	賣藥行商	產婆	鍼灸按摩術	看護婦
四七	三三	二〇	二四	五五	六八	六三	一〇四

種別	昭和十一年 患者	昭和十一年 死亡	昭和十年 患者	昭和十年 死亡	昭和九年 患者	昭和九年 死亡
赤痢	二六	二	一七	〇	一七	三
疫痢	四〇	一九	五三	二六	三五	二二
腸チブス	三六	九	三四	九	四一	八
パラチブス	四	—	二	一	二	—
猩紅熱	八	—	六	—	一三	—
ヂフテリヤ	一二	三	一四	一	九	—
流行性腦脊髓膜炎	—	—	一	—	—	—
計	一二六	三三	一二七	三七	一一七	三三

種痘

公種痘 善感	公種痘 不善感	公種痘 檢診未了	公種痘 未種痘	私種痘 善感	私種痘 不善感
二、二七三	五九五	一	二三五	一八	—

塵芥處分

人員 掃除監視員	人員 掃除夫
一	一六

衛生

塵芥處分

掃除夫延人員	搬出數量	蒐集戸數
四、二四五	一、三三〇、七三〇貫	一〇、九二五

火葬場

特等	一等	二等	無料	市負擔	計
五一	二三四	六五六	一七	—	九五八

靈柩自動車 市內	靈柩自動車 市外	靈柩自動車 計
四五六	二九	四八五

警備

火災

度數	罹災戸數 住家 世帶數	罹災戸數 住家 坪數	罹災戸數 非住家 棟數	罹災戸數 非住家 坪數	損害見積額
三	五〇	一、〇四九坪	三三	三、一八〇坪	四四五、〇〇八円

公設消防組

組數	部數	人員	ポンプ 蒸氣	ポンプ ガソリン自動車	ポンプ 腕用	ポンプ 自動車	牽引自動車	器具置場	消火栓	貯水箇所	火ノ見 梯子	火ノ見 櫓
一	八	四二六	〇	六	五	五	六	九	四五八	一〇七	—	二七

兵事

徴兵檢査成績

體格種別（入寄留共）	
甲	一九八
第一乙	六七
第二乙	九五
丙	八六
丁	二九
戊	〇
計	四七五

徴收人員		
現役	陸軍	一〇七
現役	海軍	一五
補充兵	陸軍	一六八
補充兵	海軍	—
外國在留延期		一六一
疾病延期		二
所在不明		—
處刑中		三
徴集免除		八六
兵役免除		二九

軍人

	陸軍	海軍
現役	一九七	六八
豫備	五〇五	四九
後備	七八七	二四
補充	一、九九六	—
計	三、四八五	一四一

在郷軍人會

聯合分會	分會	會員數	經費（豫算）
一	七	三、三一〇	二、九三〇円

社寺宗教

神社

	社數	神職
縣社	一	二
郷社	一	二
村社	二一	二二
無格社	一五	一三
計	三八	三九 兼六

寺院

	寺數	檀徒
曹洞宗	二	八四四
眞言宗	二	六五
淨土宗	四	八、八六七
臨済宗	一六	六、六五九
眞宗	三	一、五七五
日蓮宗	三	一三、九〇六
計	三九	三〇、九一四

神佛道教會

	教會	教信徒數
天理教	九	三、四七五
金光教	二	一、五二四
大師教	二	二四八
醍醐教	一	一一七
御嶽教	一	二三五
曹洞宗	一	一二五
計	一六	五、七〇二

基督教會

	教會	信徒
福音教會	一	三二
メソヂスト教會	一	七九
美普教會	一	一〇三
聖公會	一	一六
天主公教會	一	七七
救世軍	一	五〇
所屬ナシ	一	二一
計	七	三七八

保勝觀光事業

名勝地

三保松原	大正十一年三月八日指定
日本平	昭和七年一月廿六日假指定
建物建築	三二
松樹伐採	一三
土砂採取	一

天然記念物

龍華寺蘇鐵	大正十三年十一月指定

觀光協會

設立年月日	役員	會員	事業	
昭和六年十月廿日	三九	一三八	史蹟名勝指定	二二
			直接取扱觀光團體 八十團體	六、八〇〇

社會事業

方面事業

方面委員	
區域	一八
委員	一八
取扱件數	一、五五七

方面事業助成會	
職員數	二
會員	二一一
經費	三、三九一円

職業紹介事業

	性別		計
求人數	男	四、六八四	七、〇三六
	女	二、三五二	
求職數	男	四、六九三	六、〇三二
	女	一、三三九	
就職數	男	三、三七二	四、六〇八
	女	一、二三六	

社會事業

公益質舗

	入質	受戻
取扱員數	五、五九八	四、五二〇
口數	八、五八五	七、九七〇
點數	二八、〇八七	二五、七四三
金額	四〇、五三九円	三七、六五〇

醫療

恩賜財團済生會

實人員	延人員	金額
一八五	三、三八五	一、二七〇円

軍事救護

區分	人員	現金給與	除隊ノ為廢止セルモノ	年末現在
現役	一二	一二	—	一二
傷病兵	—	—	—	—
計	一二	一二	—	一二

診療所

	設置年月日	職員數	治療患者延人員	收入	支出
醫師會診療所	昭和五年二月十一日	四	四、一五五	二、四六四円	二、四三〇円
清水市診療所	昭和九年五月十八日	一七	三一、八四八	二二、四三三	二六、三六六

救護

救護法

種別	負擔別	世帶數	實人員	延人員	金額
生活扶助	縣	三	一〇	五七五	四三円
	市	一八六	二九五	四二、八六八	三、八二一
	計	一八九	三〇五	四三、二六三	三、八六四
醫療	縣	一	一	三八	一六
	市	九〇	九二	五、二一九	九五二
	計	九一	九三	五、二五七	九六八
助産	縣	—	—	—	—
	市	二	二	五	六六
	計	二	二	五	六六
埋葬	縣	—	—	—	—
	市	二	二	—	六九
	計	二	二	—	六九
合計	縣	四	一一	六一五	五八
	市	四〇六	四九八	四六、九二〇	四、八九三
	計	四一〇	五〇九	四七、五三五	四、九五一

社會事業

行旅病人	
取扱數	六
内放還	二
死亡	二
家族へ引渡	二

行路死亡人	
取扱數	三
内家族ニ引渡	一〇
身元不明	二

市營住宅	
箇所數	一
戸數	四八
設置年月日	大正十一年五月六日
家賃 最高	一五円
家賃 最低	五円

清水隣保館（私立）	
設立	昭和五年一月二十一日
職員數	八
保育部託兒兒童延人員	二六、〇七七
方面事業部取扱件數	四二七

清水保育園（私立）	
設立	昭和六年七月九日
職員數	七
託兒兒童延人員 乳兒	五、〇三三
託兒兒童延人員 幼兒	二九、七五六

清水自助館（私立）	
設立	大正十年十二月廿七日
職員數	三
宿泊保護人員	四、五四九
人事相談指導	一三二

清水内鮮同和會（私立）	
設立	昭和五年四月二日
職員數	四
取扱件數	一四〇
託兒兒童延人員	一、二五〇

宮加三保育園（私立）	
設立	大正十四年九月五日
職員數	六
保育兒童延人員	一、四三九

警察

警察	
警視	一
警部	一
警部補	六
巡査部長	一二
巡査	七一
其他	一二

警察處斷	
拘留	三
科料	七一六

犯罪及犯則	男	女
刑法犯	八八八	三三
法律違反	二六五	五
規則違反	八八	二
縣令違反	一三	八
處罰令違反	三五	二
計	一、三〇六	五〇

警察

變死	
自殺者	二七
被殺害者	一
誤死者	四九
天災其他	三
計	八〇

署數	
	二
駐在所	二三
派出所	九

財政

直接國税、間接國税

國税 種別（直接國税）	税額
第一種所得税	三〇、六三一円
第三種所得税	七九、八三〇
法人營業收益税	一七、一二〇
個人營業收益税	三七、七一八
資本利子税	八六二
地租	三七、〇三四
臨時利得税	法人 二一、五〇九 個人 六、八三八
計	二三一、五四二

國税 種別（間接國税）	税額
酒造税	七二、七三六円
酒精及酒精含有飲料税	四二、三一九
清涼飲料税	四、一五七
砂糖消費税	一、二四六、九〇九
織物消費税	四八〇
計	一、三六六、六〇一

縣税 種別	税額
地租附加税	五二、〇六〇
特別地税	三、四一六
營業收益税附加税	五九、六三七
所得税附加税	六一、〇一七
家屋税	五〇、四八四
營業税	八、〇四一
雜種税	六四、二六五
都市計劃附加税	二、四五六
計	三〇一、三七六

市税 種別	税額
地租附加税	二八、〇九五
特別地税附加税	一、八五三
營業收益税附加税	七一、七五五
家屋税附加税	三三、七八三
營業税附加税	八、〇四二
雜種税附加税	七七、九〇五
特別税戸數割	一八〇、九四七
特別税タンク税	九八五
都市計畫特別税	七四、〇一九
計	四七八、三八〇

諸税負擔 種別	一人當	一戸當
直接國税	三、三八円	一七、四一円
縣税	四、二八	二三、六八
市税	七、二五円	三七、四三円
合計	一四、九一	七八、五二

財政

市有財産

	土地價額	立木價額	建物價額	現金	諸株券價額	計
基本財産	三〇一、〇三三円	三五八、八二四円	一三、〇〇〇円	一、八五七円	六、七五〇円	六七九、九二五円

	現金	諸株券價額	計
其ノ他財産	一、一八〇円	二五〇円	一、四三〇円

歳入

（豫算ハ昭和十二年度
決算ハ昭和十年度）

科目	豫算	決算
財産ヨリ生スル收入	八、六三三円	七、四九六、一七円
使用料及手數料	五四、七九七	五八、二五三、八七
交付金	一三、五五一	一三、七五五、二三
國庫下渡金	五五、八〇〇	六二、〇四四、二二
納付金	九一三	一、二三五、七一
報償金	六、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇
國庫補助金	四、七九一	三、三八八、七八
縣補助金	八、四七九	一六、一五三、六七
寄附金	一四、九五六	一、七五八、五〇
繰入金	一、五〇〇	〇
財産賣拂代金	七二、四四一	一二、〇六六、五九
負擔金	一九、三七五	六、五一九、六五
繰越金	一	一三、七九九、七八
雜收入	一二九、四九五	四五、八三八、二二
市税	四三五、四四九	三五八、五五五、一三
市債	八一、五〇〇	四三〇、八〇〇、〇〇
歳入合計	八八六、六八〇	一、〇三五、六六五 四九

歳出

（豫算ハ昭和十二年度
決算ハ昭和十年度）

科目	豫算	決算
神社費	一、五〇六円	一、二七九、六九円
會議費	四、三八一	二、四六九、三〇
役所費	七六、〇九五	七三、〇一九、六〇
土木費	一三、九七八	一一、三九八、七三
小學校費	二三一、八三三	一九一、一一〇、〇九
商業學校費	五六、八七八	三五、七四八、四三
幼稚園費	六、八四八	六、七〇六、四五
青年學校費	一六、九八一	九、七三八、七八
社會教育費	二、九〇〇	一、三八二、〇六
實修學校費	〇	一、九六一、六二
青年學校費	〇	三、七九〇、七七
圖書館費	二、一一〇	一、八四七、五八
學事諸費	二七〇	二二四、三五
傳染病豫防費	一、四四九	一、一一三、五三
隔離病舎費	—	一五、八四
市立病院費	一〇、〇八四	九、三三八、六五
汚物掃除費	九、四七〇	九、三四六、五六
代用診療所費	二一〇	七九、〇〇
衛生諸費	四六〇	五四、四五
火葬場費	四、九五四	四、一五二、九二
勸業諸費	二一、一九四	三、九四二、八三
職業紹介所費	七、〇四九	二、五〇八、八六
社會事業費	四九〇	四六六、五九
救護費	六、七二〇	五、六一四、五三
診療所費	二八、九二四	一〇、六六四、二八
警備費	一六、三三四	一六、二六七、四三
基本財産造成費	一、八〇四	七一五、九六
財産費	四、七一〇	三、一二四、三一
諸税及負擔	二、〇五〇	九二七、四四
公金取扱費	五〇〇	五〇〇、〇〇
給與金	二、九七〇	四、四七四、〇〇
雜支費	三三、六八二	三三、五四八、〇六
豫備費	五、〇〇〇	〇
經常部計	五〇九、六三三	四三八、五二一、六四
役所費	九二〇	三九九、四一
市史編纂費	一、八四〇	一、八一六、八二
土木費	七七、一五〇	三三、二二七、六三
小學校營繕費	〇	二一、七四九、四三
商業學校費	一三、〇〇〇	〇
警備費	五、六二三	二、六一六、一六
積立金穀	九、一〇三	三、四四一、七九
公債費	一七九、八〇七	一八四、九二八、九八
選擧費	一、二九五	二、八九〇、一六
市勢發展調査費	五〇〇	三一八、七一
補助費	一三、五六九	一四、四八三、〇〇
寄附金	三七、七五六	〇
雜支出	三五、二三四	五、一〇四、三〇
災害費	〇	一三三、八八五、九一
灯竿建設費	〇	一、三四九、二〇
診療所費	二、二五〇	〇
國勢調査費	〇	一、〇三八、五四
臨時部計	三七七、〇四七	四〇七、二四〇、〇三
歳出合計	八八六、六八〇	八四五、七六一、六七

議員及市職員

	選擧有權者	議員定員
衆議院議員	一三、〇五七	一
縣會議員	一三、五〇三	二
市會議員	一三、五〇三	三六

名譽職　職名	人員
市參事會員	一〇
學務委員	一〇
土木委員	一二
水道委員	一六
市勢發展調査委員	一一
財政調査委員	一四
衞生委員	一〇
市税滯納整理委員	八
港灣利用調査委員	一〇
都市計畫靜岡地方委員	六
都市計畫評價委員	一〇
都市計畫委員	九
區長	六九
區長代理者	六九

市吏員

職名	人員	職名	人員
市長	一	書記補	二六
助役	一	技手	一〇
收入役	一	技手補	二
主事	四	掃除監視員	一
技師	三	雇	一八
書記	三二		

文書

區分	收受	發送	計
官公衙	七、一九二	七、〇九四	一四、二八六
一般	三、三六五	二、四八九	五、八五四
計	一〇、五五七	九、五八三	二〇、一四〇

官公署

名稱	位置	電話番號
清水警察署	江尻	六五
清水水上警察署	港町四丁目	二〇〇
横濱税關清水支署	仝	[illegible]二九
東京地方遞信局海軍部清水出張所	日ノ出町一丁目	一、二〇六
靜岡縣水産試驗場	仝	三三五
内務省横濱土木出張所清水港修築事務所	清水宇清開	六二九
内務省横濱土木出張所清水機械工場	仝	三一七 三二九
大藏省名古屋地方專賣局清水出張所	新港町	三〇四
靜岡區裁判所江尻出張所	江尻	一
遞信省燈臺局清水燈臺	三保	一
鐵道省名古屋鐵道局清水驛	辻	一八四
鐵道省名古屋鐵道局清水港驛	新港町	二八三
清水郵便局	辻	一
清水本町郵便局	清水	八四三
清水波止場郵便局	港町四丁目	六二〇
清水江尻郵便局	江尻	八四二
清水清水驛前郵便局	辻	八四四
清水駒越郵便局	駒越	一、二〇〇
清水三保郵便局	三保	一
靜岡縣清水港務所	日ノ出町二丁目	六二九
清水穀物檢査出張所	江尻	六一八
清水・市役所	辻	三〇〇
清水市職業紹介所	辻	一、〇三三
清水市消防組常設部	清水	五〇

公共及實業團体

名稱	位置	電話番號
清水商工會議所	辻	一、一八〇
清水市農會	市役所内	三〇〇
清水市水産會	仝	三〇〇
庵原郡實業團體事務所	江尻	六一八
庵原郡、清水市柑橘同業組合	庵原郡實業團體事務所内	六一八
庵原郡、清水市茶業組合		
庵原郡、清水市木炭同業組合		
中駿畜産組合	庵原郡實業團體事務所内	六一八
庵原郡、清水市柑橘商同業組合	辻	
日本柑橘北米輸出同業組合	仝	七七九
静岡縣東亞輸出組合	清水商工會議所	一、一八〇
清水市養鷄組合聯合會	市役所内	三〇〇
江尻町漁業組合	江尻	
清水港漁業組合	清水	
村松、宮加三濱漁業組合	村松	
三保濱漁業組合	三保	三保 一三
駒越濱漁業組合	駒越	
増、蛇塚・濱漁業組合	増	
蛇塚保護土工森林組合	蛇塚	
清水港材木商同業組合	辻	一三七
清水市信用組合	仝	四七七
不二見信用組合	村松	六四五
不二見購買販賣利用組合		
清水瓦購買販賣利用組合	江尻	六九一
清水市購買組合	上清水	九九三
静岡縣購買販賣利用組合聯合會	日ノ出町一丁目	一、〇八〇
清水洗染クリーニング商業組合	江尻	九八〇

新聞社（日刊）

名稱	所在地
東海中正新聞社	江尻
清水日々新聞社	辻
清水毎日新聞社	入江
東京朝日新聞社通信部	辻
東京日々新聞社通信部	松原町二丁目
報知新聞社通信部	江尻
讀賣新聞社通信部	入江
静岡新報社支局	辻
静岡民友新聞社支局	江尻
新愛知 國民 新聞社支局	辻
名古屋新聞社支局	松原町三丁目

清水驛ヨリ樞要地驛ヘノ里程賃金

驛名	粁程	三等賃金
札幌	一、三五五、三粁	一二、九四円
青森	九〇九、〇	八、三八
盛岡	七〇四、三	七、〇四
仙臺	五二一、一	五、七〇
秋田	七四三、四	七、三一
山形	五三一、八	五、七八
福島	四四一、八	五、〇六
水戸	二九〇、一	三、六九
宇都宮	二七八、五	三、五六
前橋	二八三、八	三、六二
浦和	一九三、二	二、六六
千葉	二〇九、五	二、八三
東京	一六九、〇	二、四〇
横濱	一四〇、二	二、〇五
新潟	五〇四、七	五、五八
富山	四五三、一	五、一六
金澤	四六三、五	五、二五
福井	三八六、〇	四、五八
甲府	二八三、〇	三、六九
長野	四〇一、五	四、七一
岐阜	二三七、三	三、〇三
静岡	一一、二	〇、一九
名古屋	一九七、〇	二、六九
津	二七二、四粁	三、五〇円
大津	三三四、六	四、一三
京都	三四四、六	四、二二
大阪	三八七、四	四、五九
神戸	四二〇、五	四、八八
奈良	三三〇、九	四、〇九
和歌山	四三四、一	五、〇〇
鳥取	五七六、五	六、三三
松江	六九八、一	七、〇〇
岡山	五六三、九	六、〇二
廣島	七三五、八	七、一八
山口	八七一、三	八、一五
徳島	七四六、八	七、七三
高松	五九六、八	六、六七
松山	六九〇、八	八、〇三
高知	九二〇、五	八、四八
福岡（博多）	一、〇〇七、一	九、一〇
佐賀	一、〇三三、一	九、四四
長崎	一、一八三、五	一〇、一三
熊本	一、一四一、二	九、八五
大分	一、〇八七、一	九、五一
宮崎	一、二九四、一	一〇、八二
鹿兒島	一、三四三、一	一一、〇三

市近郊名所舊蹟里程及自動車賃金表（清水驛起點）

名稱	賃金	粁程
次郎長墓	六拾錢	（粁）三、五
狐ヶ崎遊園地	八拾錢	三、九
龍華寺	壹圓	四、八
鐵舟寺	壹圓	四、八
御穗神社	貳圓	九、〇
羽衣松	貳圓	九、五
三保燈臺	貳圓	九、七
三保飛行場　三保海水浴場	貳圓	九、七
久能山	貳圓	一〇、三
梅蔭寺・龍華寺・三保經由久能山送り	參圓五拾錢	一五、三
梅蔭寺・龍華寺・久能山送り	貳圓七拾錢	一二、一
梅蔭寺・龍華寺・日本平三保經由久能山送り	五圓	三三、一
梅蔭寺・龍華寺・日本平三保久能經由靜岡送り	八圓五拾錢	
日本平	貳圓	八、四
靜岡驛	貳圓	一一、三
興津驛	壹圓貳拾錢	四、八

備考

本要覽は昭和十一年の事實を主とし、本市勢の梗概を列擧し、尙調査し得るものは最近の事實を掲載せり。

昭和十三年一月十五日印刷
昭和十三年一月二十日發行
發行所　清水市役所
編輯兼發行者　清水市辻一、二三七　清水市長　山田靜四郎
印刷人　清水市辻一、五〇五　神谷興助
印刷所　清水市辻一、五〇五　神谷印刷所

清水市役所